



## 地域の「シゴト」をこなして宿泊する「TENJIKU 吉野」オープン ～関係人口の増加を目指す吉野町の取組～

### ■関係人口の増加に向け、吉野町とIT企業が連携

「関係人口」とは、「昔住んでいたことがあり、今もその地域が気になる」、「その地域が好きで年に何度も訪れる」など、地域と密接な関係を持つ人々のことをいう。単に観光で訪れる「交流人口」より地域との関わりが深く、新たな地域づくりの担い手としての可能性が期待されている。

2019年6月下旬にオープンした「TENJIKU 吉野」（吉野町上市）は、関係人口増加に向けた吉野町の取組の一環で生まれた宿泊施設である。

吉野町とともにサービスを提供する株式会社SAGOJO（本社：東京都渋谷区）は、写真撮影、文章・動画作成等のスキルを持つ「すごい旅人」を、地域の企業や自治体に紹介する求人サイトの運営企業。同社が新たに立ち上げたTENJIKUは、地域のライトな「シゴト」をこなすことで旅人が無料で宿泊できるサービスとして、吉野町・京丹後市・下関市の全国3市町でスタートした。

SAGOJOと吉野町とが連携するきっかけは、数年前に同社の新拓也社長が町内のゲストハウス・三奇楼を訪れ、「ここに旅人をつなぐような拠点をつくりたい」との意志を示していたこと。2018年、役場内のプロジェクトチームにおいて関係人口増加に向けた施策を検討する中、三奇楼に隣接する離れを、「TENJIKU 吉野」としてSAGOJOとともに運営することが決まった。

### ■地域の「シゴト」が宿泊料のかわりに

利用にあたっては、旅人が経歴や旅の目的、特技や、宿泊予定日等を事前に登録。地域のニーズと合致すれば、同施設に無料で宿泊でき、代わりに地域の人々から依頼される「シゴト」をこなす。

TENJIKU 吉野でこれまでに依頼されたシゴトは、地域の伝統行事「立山まつり」に用いる人形制作の手伝い、農産物の収穫、草刈など。SNSによる滞在中の出来事の発信もシゴトの一つ。

今年着工したばかりの同施設は未完成の部分も

あり、旅人のシゴトには床板張りといったDIY（日曜大工）もある。走り始めたばかりの同施設だが、オープンから1か月を過ぎた取材日（8月7日）時点で11組12名の旅人が訪問済または訪問予定。中には「TENJIKUを通じて初めて吉野町を知ったが、また訪ねたい」という旅人もおり、同施設は新たな関係人口を着実に増やしている。

### ■「住民と旅人との関係の近さ」を魅力に

利用者の1人で、会社の長期休暇を取得して吉野町に来たという首都圏の20代女性に話を伺うと、「様々なシゴトや多様な人との触れ合いを通じて価値観が変わった」といい、都会では味わえない「住民と旅人との関係の近さ」が魅力と語る。

開業に向け尽力した吉野町総合政策課の八釣直己主査は、「TENJIKU 吉野での交流をきっかけに、地域に『自分も何かできないか』と考える人が出てきた。感度の高い人が集まる場を作ることで、地域に新たな動きが芽生えつつある」と手応えを語る。

TENJIKU 吉野で、住民と旅人との間で日々生まれる交流が、今後どのような相乗効果を発揮するかが注目される。

（太田宜志）



（左上から時計回りに）ゲストハウス三奇楼の入口、離れ共用スペース部分、農作業手伝いの様子、旅人を交えた飲み会の様子